

# ステージラボ札幌セッション 募集要領

ステージラボは、地域の文化・芸術に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムです。少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップなど双方向の研修で、地域における創造的な表現活動の環境づくりに取り組む人材の育成と、相互交流の促進を目指して実施します。

## ■ 開催概要

日 程：2023年7月4日（火）～7月7日（金）[4日間]

※公立ホール・劇場マネージャーコースは、7月4日（火）～7月6日（木）[3日間]

会 場：札幌市民交流プラザ（札幌市中央区北1条西1丁目）

開講コース：①ホール入門コース、②自主事業コース、③公立ホール・劇場マネージャーコース

定 員：各コース20名程度

参 加 費：研修参加は無料 ※交通、宿泊、滞在中の食事はご自身で手配、費用負担いただきます。

開 催 体 制：主催／（一財）地域創造 共催／札幌市民交流プラザ、札幌市 後援／北海道

そ の 他：新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、PCR検査または抗原検査を行ったうえで参加していただく場合があります。その場合の検査費用は参加者の負担となります。

### ①ホール入門コース

コーディネーター：荻原 康子（上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー）

そもそも公共ホールや劇場は、地域にとってどんな存在でしょうか。目の前の仕事に突き進んでいく前に、まずは文化政策のアレコレや文化芸術振興の多様な担い手について知り、基礎力を培うことから始めましょう。さまざまな立場で現場にかかわる実務家やアーティスト等を交え、参加者の皆さんと「わがまち」を構成する要素を分解しながら、地域と応答する文化施設のあり方について考えていきます。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む<sup>\*</sup>）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において業務経験年数1年半未満（開館準備のための組織は年数不問）の方。

### ②自主事業コース

コーディネーター：仕田 佳経（一般財団法人地域創造ディレクター、おんかつコーディネーター）

事業担当者には地域課題や地域資源に向き合い、アートの力を通して事業を企画していくことが求められています。「堅苦しい」「敷居が高い」などと言われがちなクラシック音楽に焦点を絞り、アーティストと共にクラシック音楽で“遊び”ながら、実際に一つのプログラムを作り上げていきます。公立文化施設におけるクラシック音楽の在り方や、事業担当者のみならず、地域住民、観客、そしてアーティストも共に育っていける可能性を皆さんで考えていきましょう。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む<sup>\*</sup>）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

### ③公立ホール・劇場マネージャーコース

コーディネーター：吉本 光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長）

新型コロナは公共劇場・音楽堂の運営に甚大な影響を与えましたが、同時に文化芸術の役割や価値を問い直すきっかけとなりました。地域の抱える課題が複雑化し、人々が将来に不安を感じる中で、公共劇場や音楽堂には何が期待されているのか。昨今重視されるようになった文化芸術の経済的・社会的価値と本質的価値をどのようにとらえるべきか。今一度、地域の文化施設のあるべき姿を見つめ直し、これからの運営や事業について考えます。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む<sup>\*</sup>）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において管理職程度の職責を持つ方。

## ■ 申込方法

当財団ウェブサイト「研修事業」→「ステージラボ」(<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html>) から、①参加申込書、②アンケート回答票 をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、メール（宛先：[kensyu@jafra.or.jp](mailto:kensyu@jafra.or.jp)）でお申し込みください。

※民間事業者の場合は③副申書が別途必要

※申込書の受信連絡は行いません。確認が必要な場合は、お問合わせいただくか、「開封確認」を設定してください。

申込締切：4月25日（火）必着

【参加者の決定】

アンケート内容、応募状況などを考慮のうえ（アンケート重視）、参加コースと参加の可否の調整を行い、2023年6月上旬頃に、申込者あて文書によりご連絡致します。

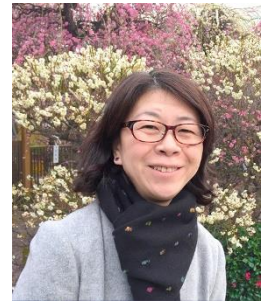
お問合せ：（一財）地域創造 芸術環境部 研修担当 TEL03-5573-4183 E-mail [kensyu@jafra.or.jp](mailto:kensyu@jafra.or.jp)

# コーディネーターからのメッセージ・プロフィール

## ①ホール入門コース

コーディネーター：荻原 康子（上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー）

いくつかのアーティスト・イン・レジデンスの運営に携わり、1994年 INAX 文化推進部、1996年キュレーター・オフィスにて展覧会企画等に従事。2001年企業メセナ協議会に入局、主に顕彰事業と機関誌を担当し、延べ500件ほどの企業メセナ（芸術文化支援）の現場を取材する。他にメセナ・プログラムの調査や助成事業の制度設計、アサヒビールとのメセナ活動のコーディネート等に携わり、2011年事務局長に就任。2017年に墨田区文化振興財団常務理事就任、区立文化施設の運営とともに地域資源を活用するアートプロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」を推進し、現在は統括ディレクター。2020年より上田市交流文化芸術センター（サントミュージゼ）の総合プロデューサーを務める。



劇場・ホールの実務に日々携わる中で、地域のさまざまなステークホルダーからの声が聞こえてくると感じます。公演に来られたお客様、施設を利用される方々、ホールの外に出ればアウトリーチ先の学校や、地元で活動する文化団体、商店街などコミュニティ組織との接点も出てくるでしょう。アートに興味のない人もいれば、関心はあってもホールに来られない人もいるかもしれない。さて、限られた予算と人員で、自分たちが拠って立つ地域のために何を優先すべきか、誰と連携できるのか…どこの現場も似たような悩みを抱えていませんか。そこでまず、公立文化施設に対する期待がどう変わってきたのかを概観したうえで、事業推進のパートナーとなるアーティストや制作者のこだわりを知り、そのクリエイティビティに触れ、可能性を感じていただくことから始めます。レクチャーだけでなく、ワークショップやグループディスカッションを交えて、参加者の皆さんと一緒に「わがまち」の文化拠点としてこうありたい！を考えます。

## ②自主事業コース

コーディネーター：仕田 佳経（一般財団法人地域創造ディレクター、おんかつコーディネーター）

静岡県富士市出身。東京藝術大学音楽学部ピアノ専攻、ベルリン音楽大学“ハンス＝アイスラー”ピアノ専攻を修了。2012年4月より一般財団法人町田市文化・国際交流財団の事業担当として町田市民ホール及び和光大学ポプリホール鶴川に勤務。2015年よりプロデューサーとして事業を統括し、2016年から町田市民ホール副館長を兼務。2018年より2年間一般財団法人地域創造に派遣され邦楽事業やおんかつ事業を担当。2020年4月より東京藝術大学音楽学部准教授（早期教育リサーチセンター）として、早期教育プロジェクトと東京藝大ジュニア・アカデミーの運営に携わる。2022年4月より現職。



近年「多様性を認め合う社会」が求められています。人は独自の道を歩み、それぞれが主観をお持ちで、もちろんその主観には正解がありません。主観と主観がぶつかり合うことで共感が生まれます。場づくりはとても重要ですが、その場は付度の場では意味がありません。公立文化施設で働く同志やゲストに迎えるアーティストや講師と出会い、お互いがアウトプットすることで新たな気づきがあるはず。この機会に参加者の皆さんと、「堅苦しい」「敷居が高い」などと言われがちな「クラシック音楽」で“遊び”ながら、一つのプログラムを作り上げる時間を共有したいと思います。自分たちで事業を制作し発信する中で、事業担当者のみならず、地域住民、観客、そしてアーティストも共に育っていきける可能性を模索してみませんか。この4日間の経験が、ご自身の地域ですでに関わり、実施している事業をもう一歩深掘りできるような、また新たな事業の足掛かりとなるような“何か”を得ていただければ幸いです。

## ③公立ホール・劇場マネージャーコース

コーディネーター：吉本 光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長）

1958年徳島県生。早稲田大学大学院（都市計画）修了後、社会工学研究所等を経て、1989年からニッセイ基礎研究所。文化政策やアートマネジメント、創造都市などの調査研究に携わるとともに、世田谷パブリックシアター、いわきアリオス、北九州芸術劇場、上田市サントミュージゼなどの公共劇場・音楽堂の開発や事業運営評価調査などに取り組む。

文化審議会委員、東京芸術文化評議会評議員、（公社）企業メセナ協議会理事、日本文化政策学会理事、東京藝術大学非常勤講師などを歴任。主な著作に「文化からの復興—市民と震災といわきアリオスと（水曜社）」「アート戦略都市（鹿島出版会）」「再考、文化政策（ニッセイ基礎研究所 所報）」など。



新型コロナの感染拡大は、地域における公共劇場・音楽堂の運営に甚大な影響を与えましたが、同時に文化芸術の役割や価値、あるべき姿が問い直されるきっかけとなりました。新型コロナによって人々は行動変容を迫られ、地域の抱える問題点や課題、生きにくさを抱えた人たちの存在が、今まで以上に顕在化しました。

文化芸術は不要不急という声がある一方で、文化施設や芸術団体の果敢な取り組みによって芸術に触れ、安らぎや勇気を与えられた人々は少なくありません。東日本大震災の被災地の人々が文化芸術を通して地域のきずなや誇り、生きる喜びを取り戻していったように、新型コロナで疲弊した社会が回復する過程でも、文化芸術の果たすべき役割は小さくありません。

地域の抱える課題が複雑化し、人々が将来に不安を感じる中で、公共劇場や音楽堂には何が期待されているのか。昨今重視されるようになった文化芸術の経済的・社会的価値と本質的価値をどのようにとらえるべきか。今一度、自身の文化施設のあるべき姿を見つめ直し、これからの運営や事業について皆さんと一緒に考えたいと思います。